

愛媛県新居浜市におけるアクセントの境界について

中 井 幸比古

はじめに

愛媛県東部には、少なくとも次の2種類のア(クセント)が分布する：讃岐式(観音寺型)(2モーラ名詞の類の統合 1.3/ 2/ 4/ 5)，中央式(同 1/ 2.3/ 4/ 5)¹⁾。前者は、少なくとも海岸沿いには、おそらく香川県西部から連続して分布し²⁾，後者は前者の西側に分布する。本稿は、この讃岐式と中央式の境界に関する調査報告である。

従来、このアの境界の位置は十分明らかではなかったようである。例えば、平山(1957)の「四国方言音調分布図」では、西条市と周桑郡小松町の間にありとされる(但し、本文の記述からは、必ずしもはっきりしないようである)。金田一(1977) pp. 176-177の「アクセント分布図」ではそれより東の、新居浜市と西条市の境界あたりにあるように見える。筆者の調査によれば、金田一氏のものに近く、新居浜市の西部(西条市寄り)にあることが判明した。

1. 調査の概要

調査地点を図1に示す。西条市東部に境界があるかと予想して(cf. 平山氏・金田一氏の分布図)，西条市から調査を始めた。ところが、そこは全域中央式だったので、順次東(新居浜市域)に調査を進めて行った。そのため、調査地点が境界の西側に片寄ってしまった。また境界近くの2集落(馬淵と西之端)が未調査なのは遺憾である。なお、その南側の、東川の上流の山地に、以前は小味地という小集落があったが、現在は無人。

話者の氏名・生年性別を下に示す。概略西から東に。地点名は旧名称(明22市町村制施行時のもの、但し1部はそれ以前のものも含む)。地名の読みかたは話者に聞いたもの。本稿のテーマとはやや離れるが、伊予三島市と川之江市の調査結果の1部も併せて報告するので、その話者氏名・生年性別も示す³⁾。諸般の事情で、話者の生年性別はかなりばらついてしまった。

あれこれ不備が多いが、それでも一応この地域のアの分布状況はとらえられよう。

〔現西条市域〕

- | | | |
|-------------------|-------|-------|
| 1. 氷見(ヒミ)村新出(シンデ) | 秦 智子氏 | 昭15 女 |
| 2. 橋村西田 | 難波江貢氏 | 大9 男 |
| 3. 神戸(カンベ)村(集落名失) | 明比剛氏 | 大10 男 |

4. 大町村大南上(オーミナミカミ)	今 井 タキ子 氏	大14 女
5. 神拝(カンバイ)村上喜多川(カミキタガワ)	青 野 美沙子 氏	昭 2 女
6. 西条町(チョー)本町(ホンマチ)	吉 田 道 子 氏	昭 2 女
7. 玉津村下島山(シモシマヤマ)	高 石 広 久 氏	昭 2 男
8. 同村横黒	矢 野 静 雄 氏	明43 男
9. 同村船屋(フナヤ)東北	浅 木 達 夫 氏	昭16 男
10. 大生院(オージョーイン)村大浜	伊 藤 亦次郎 氏	明42 男
11. 飯岡(イーオカ)村半田	藤 田 綾 子 氏	明36 女
12. 玉津村所藪(トコロヤブ)	森 本 貞 雄 氏	昭 6 男
13. 飯岡村亀ノ甲(カメノコ)	野 口 勝 弘 氏	昭 5 男
〔現新居浜市域〕		
14. 大生院村大生院銀杏ノ木(イチョーノキ)	野 口 幸 夫 氏	大14 男
15. 萩生(ハギュー)村岸の下	徳 永 唯 男 氏	明42 男
16. 同村同集落	徳 永 節次郎 氏	明43 男
17. 同村西	福 田 多喜男 氏	大 5 男
18. 同村旦の上(ダンノウエ)	松 木 基 氏	大 3 男
19. 同村東(ヒガシ)	高 橋 国 栄 氏	大 3 男
20. 同村同集落	守 谷 建 男 氏	大11 男
21. 同村治郎丸(ジローマル)四軒家(シケンヤ)	秦 頼 光 氏	大 6 男
22. 中村横水(ヨコズイ)	近 藤 一 氏	明42 男
23. 同村本郷	神 野 寛 氏	明42 男
24. 同村上原(ウワバラ)宮ノ西	守 谷 ツ ヤ 氏	明41 女
25. 同村同集落西ノ窪(クボ)	守 谷 達 一 氏	大12 男
(26. 同村土橋(ツチハシ)	高 橋 玉 置 氏	明43 男)
27. 金子村磯浦西之谷	伊 野 住 子 氏	大 3 女
28. 同村新田	塩 崎 萬 一 氏	明38 男
29. 新居浜村大江	馬 越 政 子 氏	昭 4 女
30. 泉川村光明寺	星 川 マサ子 氏	明40 女
〔現伊予三島市域〕		
31. 三島村真古町(シンコマチ)(現中央)	石 川 史 朗 氏	昭 5 男
〔現川之江市域〕		
32. 川之江村旭町(マチ)	石 原 幸 恵 氏	昭15 女
33. 川滝村久保ノ内	石 村 哲 夫 氏	昭 8 男

話者 8 は話者 7 と同席で調査。あとは各話者別々に調査。話者 26 は簡略調査で結果の提示略。萩生村と中村は明 22 合併し、中萩村となった。

現在、新居浜と西条を結ぶ道は 2 カ所にある。海岸沿いの磯浦と船屋を結ぶ道と、内陸の予讃本線近くの平地の何本かの道と。前者はごく最近できたものである。磯浦と船屋の間は海岸まで山がせまり、集落もなく、以前はそこを行き来することは不可能であった。後者には昔からの街道もあり、街道沿いと周辺の平地には、新居浜から西条までずっと、集落が点在している。上記 2 カ所の道にはさまれた山地に集落はない。

2. 讃岐式と中央式の比較

調査地域における ① 讃岐式と ② 中央式の、3 モーラまでのアと類別語彙の所属を表 1 に示す。記号の意味：「は上昇、」は下降、▽はわずかな下降、○は自立語のモーラ、△は順接の付属語のモーラ、I II…は自立語のモーラ数、名は名詞、動は動詞、形は形容詞、コは高起式、カは下降式、テは低起式⁴⁾。用言は、終止・連体形のア（終止形と連体形のアは同じ）を示す。

表 1 の注意点。

低起式は ①②とも早上がりともみなが、それほど明瞭ではない⁵⁾。

II = テ 0 と II = テ 2, III = カ(コ) 0 と III = カ(コ) 3, III = テ 0 と III = テ 3 は、①②ともに、各々付属語をつけないと区別なし（モーラ内の下降調なし）⁶⁾。

①と②のアの比較（①②）

①ア体系の面からは、①②ともに 2 つの式と下げ核が弁別的な体系である。但し、式に関しては、①は下降式と低起式、②は高起式と低起式である。高起式と下降式の相違は、わずかな下降（自然下降より大きく、核による下降より小さい）の有無である。また低起式につき注⁵⁾参照。

②所属語彙について、次の 4 点に注意。II 名 3 類は、①でカ 0、②でコ 1、III 名 4・5 類は、例外が多いが、①でカ 0、②でコ 1（4 類の 1 部にコ 2 も）。表 1 にはあげなかったが、IV 形 1・2 類は、①でテ 2、②でコ 2。また、II = カ(コ) 0 に低接の付属語がつくと、文節全体を 1 単位とみて、①でカ 1、②でコ 2。なお、讃岐式・中央式などの「式」は、上野(1986)の定義によると 2 モーラ名詞の類の統合のしかたに基く。従って、讃岐式と中央式を区別するものは、上記 4 点のうち、II 名 3 類のアである。

3. 調査結果

3.1 上記①②が境界地帯でどうなっているかを述べる。

まず④について。境界地帯では下降式か高起式かの聞き分けは難しい。その境界ははっきりしないが、あえて言えば図 1 の讃岐式と中央式の境界に大体一致するか。

一般に新居浜市の讃岐式は下降することはするが、その度合は川之江や三島のそれよりも小さいようである。かなり広い地域にわたって連続的な移行をしているのかもしれない（この予想は上野善道氏（私信）

による)。そこで、以下においては、甚だ杜撰であるが、高起式と下降式を一括して無印(0, 1, 2...)で表わすことにする(低起式はテ0, テ2, テ3...)。そしてつばら④について述べて行く。

3.2. その前に、調査語彙のうち、④と無関係なものについて触れる。なお、調査語彙のほとんどは金田一語彙から抜き出したものである。

まず、全地点で同じア(高起式と下降式は同じものとして扱う)かそれに準ずるものは次のようである。なお、下にⅡ=テ0に属するとしたもののうち、用言について、「食う柿」は話者全員 ク「ーカキ、うに食われん」において、「食うに」は話者4と29でテ0型(他の話者未詳)。全地点Ⅰ=0: 柄, 蚊, 子, 戸(以上1類), 鶯(話者7, 8, 18, 27は1型), 藻(話者18は1型)(以上2類), 毛(以上X類), 気(が狂う), 紗, 間(がぬける), 紹(以上その他)。全地点Ⅰ=1: 名(話者12は0型), 葉, 日(太陽), 矢(話者23は0型)(以上2類), 齒, 刃(以上X類)。全地点Ⅰ=テ0: 絵, 尾(話者5は0型), 木, 粉, 酢, 手, 根, 火, 庇, 穂(話者29は0型), 目, 芽, 湯, 夜, 輪(以上3類)。全地点Ⅱ=0: 蟻, 牛, 梅, 顔, 柿, 風, 壁, 釜, 口, 国(話者15, 19, 21, 24は1型), 首, 先(棒の), 酒, 鯖, 底, 爪, 鳥, 庭, 箱, 端, 蜂, 鼻, 右, 水, 道(以上1類), 蔦(話者14はテ2型。24は1型か?)(以上2類), 墓(以上3類), 味(以上その他)。着る, 為る, 寝る, 行く, 買う, 貸す, 咲く, 死ぬ(全般に死ぬる0型も), 泣く, 巻く, 言う(以上1類)。全地点Ⅱ=1: 真似(話者7, 18, 19, 20, 28は0型)(以上1類), 鰻, 石, 岩(話者23, 28, 29は0型。ユワの人も), 歌, 音, 紙, 川, 梨, 夏, 橋, 旗, 昼, 冬, 町, 胸, 村, 雪, 余処(以上2類), 鞠(話者25は0型。テンマル(テ0)が普の人も), 鰐(話者28, 29, 30は0型)(以上3類), 先(に行け), 元(は先生(話者11, 13はテ2)(以上X類), 蔓(以上その他)。居る(以上3類)。濃い, 酔い。着た(キータ(1)の人も), 寝た。来た, 見た。全地点Ⅱ=テ0: 誰, 何処(以上1類), 麻, 穴, 皮(以上3類), 帯, 鎌(話者5は0型), 下駄, 汁, 隅, 空, 種子, 粒, 何, 針, 船, 松, 麦, 藁(以上4類), 足袋(以上5類), 今, 此処, 其処(以上X類)。生む(以上1類), 来る, 出る, 見る, 編む, 飼う, 書く, 食う, 挿す, 立つ, 飲む(以上2類)。良え。全地点Ⅲ=テ2: 青, 赤, 秋, 朝, 汗, 兄, 蛇(話者5, 6は0型), 雨, 井戸, 桶, 蔭, 黒, 声, 猿, 白, 縦, 鶴, 鍋, 春, 蛇(全般にクチナ(人によりテ0かテ2)も。ヘンビ(ン)(サン)(テ0)もの人も, 但し, 蛇の1種で神の使いとされる), 前(とうしろ)(「以前」の意では全地点1), 窓(以上5類)。全地点Ⅲ=0: 田舎, 嗽, 飾, 鏝, 鎖, 車, 煙, 魚, 桜, 相撲, 畳(話者30はテ0型か), 寝言, 二十日, 鼻血, 日照, 二日, 三日, 六日, 息子(以上1類), 別れ(話者31と33は1型)(以上4類), 間(家と家の), 所(時と)(以上X類)。開ける, 抜ける, 腫れる, 負ける(以上1類), 提げる(以上その他), 上がる(緊張。階段は全地点テ0), 歌う, 飾る, 沈む(話者8, 11はテ0型)(以上1類)。全地点Ⅲ=1: 形(話者22は0型)(以上1類), 女(話者1は2型)(全般にオナゴも。オナゴは人により1または0型。但し話者1は2型), 東(話者1は2型), 三つ(促音を含む音節全体が核を担うが便宜上ここに。音調は「ミッ」ツで, 促音の部分は高), 娘(話者1は2型), 六つ, 八つ, 四つ(以上2類), 昨日(人によりキンニョ(1)またはキンヨー(1)も)(以上4類), 朝

日（話者 33 は テ2 型），鮑（話者 13 は テ2 型），従兄弟，柘榴（人によりジャクロも），姿，紅葉，山葵（以上 5 類），力，ニ十才，向^{ムカ}う（以上 X 類）。買^カ一た，咲いた，死んだ，泣いた。開けた，腫れた。赤い，厚い，甘い，重い（以上 1 類），暑い，白い，高い，広い（以上 2 類）。全地点Ⅲ＝テ0：鯛（ユワシの人も），燕，着物，子供（以上 1 類），境（サカエの人も），峠（以上 4 類），親子（話者 21 は 1 型），茄子（以上 5 類），菖蒲，兎（オサギの人も），鰻（オナギの人も），蛙（ガエルもの人も，但し特定種か），狐，蝨，雀，李，高さ，団子，田圃，長さ，鼠，裸，裸足^{ハダシ}，左，広さ，みみず，蓬（ヨムギまたはユムギの人も）（以上 6 類），畑（以上 7 類），欠伸，鳥（以上 X 類）。編んだ，書いた，飼^カ一た，立った。歩く，隠す（以上 3 類）。全地点Ⅲ＝テ2：小豆（以上 2 類），白髪（以上 4 類），襷（話者 31 は 0 型，33 は 1 型），柱（以上 5 類），苺，後ろ，蚕，兜，辛子，鯨，菓，卵，盥，椿，鉛，緑（以上 7 類），狸，とかげ（以上 X 類）。起きた，晴れた。全地点Ⅳ＝0：生まれる，並べる，忘れる（以上 1 類），集める，離れる（以上 2 類）。全地点Ⅳ＝1：飾った，上がった（緊張で。階段は全地点テ2），歌と一た（ウトタ (1) の人も），写した，落とした，頼んだ。生まれた（話者 1 は 2 型），並べた（同左），集めた（同左），離れた（同左）。無かった，良^{ヨシ}かった。全地点Ⅳ＝テ0：答える（身体にこたえるは全地点 0 型）（以上 2 類），抱える，隠れる（以上 3 類）。全地点Ⅳ＝テ2：歩いた，隠した，抱えた，隠れた。全地点Ⅴ＝テ2：濃^ノかった，酢^スかった，赤^{アカ}かった，甘^{カン}かった，重^{オモシ}かった。暑^{アツ}かった，白^{シロ}かった，広^{ヒロ}かった。全地点順接の付属語：オ，ガ（主格），ト（並列），ニ，ノ（連体），ワ，カラ，ニワ（ニ十ワ）。

次に，㊤に該当するものを除いて，地域差がある（か）と思われる語彙をあげる。血（話者 31～33 は 1 型，他は全員 0 型）（以上 1 類），巢（話者 31～33 は 1 型，他は全員 0 型），背（丈）（話者 1～18 と 24 は 1 型，他は全員 0 型。或いはⅡ名 3 類並みかも）（以上 X 類）。飴（話者 1～14 は 0 型，15～33 は テ0 型），此（話者 31 と 33 は テ0 型，他は全員 0 型），皺（話者 31～33 は 1 型，他は 0 型），鈴（話者 1，2 と 28～30 は 0 型，他は 1 型），其（話者 31 と 33 は テ0 型，他は全員 0 型），虫（話者 11 と 13～17 は 1 型，他は全員 0 型）（以上 1 類），瘧（話者 31～33 は 1 型，話者 10 と 30 は 0 型，他は全員 テ2 型。黒子の意の人が多い），北（方角）（話者 18 と 20～23，25～29 は 0 型，他は全員 1 型），人（話者 19～23，25～30 は 0 型，他は全員 1 型），肘（話者 9，20～30 は 0 型，他は全員 1 型）（人と肘は，話者 31～33（川之江・伊予三島）を除くと 3 類並みの分布）（以上 2 類），蛆（話者 30 は 1 型，31～33 は 0 型，他は全員 テ2 型），舌（話者 5～6，11～25 は テ0 型，他は全員 テ2 型）（但しベロ (1) が本来の人多し），孫（話者 1～4，7～8，13 は テ2 型，他は全員 1 型）（以上 3 類），牡蠣（話者 31～32 は 0 型，33 は 1 型，他は全員 テ2 型），上（あの～は未詳）（話者 3～9，11～12 は 0 型，他は全員 1 型），亀（話者 20～22，25，29～31 は 0 型，32～33 は テ2 型，他は全員 1 型。3 類並みかも），下（あの～は未詳）（話者 3～9，11～12 は 0 型，他は全員 1 型）（以上 X 類），氷（話者 31～33 は 0 型，他は全員 0 型），隣（話者 12，15，17～33 は テ0 型，他は全員 0 型）（以上 1 類），袂（話者 1，2，5，8，12 は テ2 型，10 は 0 型，他は全員 テ0 型），林（人名不詳）

(話者1~11, 13~15, 29, 31~33型は0型, 他は全員テ0型), 蓆(話者12, 18~33はテ0型, 17は0型, 他は全員テ2型。ミシロの人も)(以上4類), 火箸(話者21, 23~33はテ0型, 他は全員テ2型)(以上5類), 背中(話者31~33はテ0型。但し31は0型も聞くと。他は全員0型(以上6類), 泉(話者1は2型, 2~11は0型, 但し4は1型も, 他は全員テ0型), 小麦(話者31~33はテ2型, 1は2型, 他は全員1型), 釣瓶(話者1~13, 16はテ2型, 他は全員テ0型), 蟹(話者1~7, 9~12, 29は1型, 他は全員テ2型), 盲(話者27~30はテ0型, 31~33は0型, 他は全員テ2型), 蕨(話者1~10, 12, 16, 19, 27は1型, 22~25, 29~33はテ0型, 28は0型, 他は全員テ2型)(以上X類)。起きる(話者2, 3, 16は1型, 他は全員テ0型。実際には併用の人があるかも。2類は中央式で1型→テ0型への変化が進行中か), 掛ける(2, 6は1型, 他は全員テ0型), 下げる(同左), 晴れる(同左)(以上2類)。なお, 数詞は名詞で調査した。

種々の理由(使用が希, 同音語のアや複合語の前部要素としてのアの影響, 共通語化, 世代差など)でばらつきが出た語。地域差の項で取りあげたものの1部はこちらにも入ると思う。帆(話者13~14, 22~33はテ0型, 18は1型, 他は0型)(以上1類), 機^{ハタ}(話者2~3, 5, 21, 25, 28は0型, 但し3はテ0型も, 21は1型も。7, 29はテ0型。1は不使。他は全員1型)(以上2類), 勝ち(話者21, 23, 25, 26, 32は0型, 但し32は1型も。他は全員1型), 塔(話者3~5, 7~9, 22~24は1型, 但し23は0型も。6~10, 29~30は0型。他は全員テ0型), 晴れ(話者1, 11, 21, 31はテ2型, 27, 32, 33は0型, 他は全員1型)(以上3類), 今日(話者23, 24, 28, 31~33はテ0型, あとは全員テ2型。実際には併用の人かなりあるかも。また, テ2はある種のイントネまたはそれが固定したものかも。下記外・中もこれに準ずるか), 外^{ソト}(話者2, 3, 8, 10, 20, 21, 23, 24, 27, 28, 30, 31, 33はテ0型, 但し3, 10, 20, 33はテ2型も。他は全員テ2型), 中^{ナカ}(話者2, 3, 7, 8, 10, 11, 16~24, 28~31, 33はテ0型。但し, 3, 33はテ2型も。他は全員テ2型)(以上4類), 夜^{ヨル}(話者1, 3, 5~7, 10~14, 28, 29, 33はテ2型, 他は全員テ0型)(以上X類)。机(話者1, 2, 8, 10, 13, 17は0型, 他は全員テ0型), 昔(話者7, 8, 10, 15, 16, 22, 24, 25, 27, 29~30はテ0型, 但し15, 24, 27はテ3も。他は全員テ3型。実際にはもっと併用の人が多いかも。テ3型はある種のイントネまたはそれが固定したものかも。下記夕べ, 明日^{アス}も。cf. 上記今日)(以上1類), 二つ(名詞)(話者1は2型。9, 10, 17, 25~33はテ0型。18, 20, 23はテ2型。他は全員テ0型とテ2型の併用。全員フターツ(人によりテ0, テ2)も), 二人(名詞)(話者1は2型。9, 10, 17, 25~33はテ0型。他は全員テ0型とテ2型の併用。全員フターリ(人によりテ0, テ2)も), 夕べ(昨夜)(話者4, 7~10, 16~17, 28~31, 33はテ0型, 他は全員テ3型。ユンベまたはヨンベの人も)(以上2類), 明日^{アス}(話者7, 8, 10, 16, 17, 21~25, 28~31, 33はテ0型。他は全員テ3型)(以上4類), 一つ(名詞)(話者1は2型。他は全員テ2型, 話者7はテ0型も。全員ヒトーツ(テ2)も), 一人(名詞)(話者1は2型。他は全員テ2型, 但し話者7はテ0型も。全般にヒトーリ(テ2型)も)(以上7類), 岬(話者5, 9, 14, 16, 18~22, 24~29, 32は0型。他は全員テ0型。但し31は未調査), わらじ(話者2~8, 10, 12は1

型。9, 13, 14, 22, 25, 29～32はテ0型。他は全員0型、但し11はテ2型も）（以上X類）。

3.3.1. 本題に入る。㊤の4点のうち、まずⅡ名3類について。表2に「讃岐式0型・中央式1型」の分布を示す語をあげた。X類にも同様の分布を示す語が数語あるので、それも併せてあげた。金田一語彙表では3類に属しながら、上と異なる分布を示す語がいくつかあるが、それについては省略（3.2. 参照）。

表2末尾に、表2にあげた語彙に関して、各地点の1型と0型の語数をあげた。話者1～20は1型が0型よりずっと多く（中央式）、21～33は0型が1型よりずっと多い（讃岐式）。図1の中央式・讃岐式の表示はこれに基く。

内陸の、予讃本線沿いの地域に関して、中央式と讃岐式の境界は、およそ、旧中村（西条藩領）と旧萩生村（小松藩領）の境界である東川に一致する。但し、治良丸は例外で、旧萩生村域にありながら讃岐式である。治良丸は、上原など東側の集落との交渉がとくに密接であったというわけでもないらしい。また、治良丸の西側に突き出した丘や、東川そのものは、人の行き来を妨げるほどのものではないようである。

上記の境界のところでは、上述のように、3類の1型と0型の語数が逆転する。またそこには、表2のbに示したように、21語もの等語線が固まって走っている。そこには大きな断層があり、そこを境界とすることに異論はないであろう。しかし、3類のa全体を見ると、ある程度「漸層的移行」（上野1981）、「移行性分布」（山口1982）の傾向も示す⁷⁾。表2のaにあげたものは、上記の境界より等語線が東にずれているもの、cにあげたものは、逆に西にずれているものである。ここで注目すべきは、aは42語もあるのにcは10語しかないことである。つまり、境界の東側に漸層的移行の傾向が顕著なのである⁸⁾。この事は表2末尾の1型と0型の語数（eも含む。後述表5でも）からも見て取れる。

表2のdには、全般的には讃岐式0型・中央式1型の分布を示しながら、地点によって例外が出る語をあげた。池と坂のテ2型は地域差かも。岸と姪のばらつきは非日常性のゆえか。桑は鋤のaとの牽引も考えるべきか。玉はテ0型への変化が進行中か。

表2のeにはX類のうちで3類並みの分布を示す語をあげた。

3.3.2. 次にⅢ名4・5類について。ここでは「讃岐式0型・中央式2型または1型」の分布が予想される。しかし実際にはきれいにこの分布を示す語は割合少ない。その原因として次の様な事が考えられる。中央式に関して、3モーラに2型が残っているのは話者1（氷見）だけである。氷見より西を調査していないので地域差か否か不明。なお、他の点でも氷見（と川之江・伊予三島）は他地点とaの異なるものが目立つ。さて、2型が少ない中央式では、京都aなどと同様2型→1型への変化が生じたと思われる。その際、京都aなどより以上に、1型の他に、0型テ0型テ2型に変化した語が目立った。そのせいで分布が不明瞭になったと考えるのである。

なお、上記2型→1型への変化のきっかけとして、讃岐式（2型を欠く）との接触ということも考えられないこともない。しかし、この変化は境界地帯だけでなく、松山地方などでも、少なくともある程度は起こっているらしい（山内1932 p. 39, 平山1957 p. 539）ので、その可能性は少ないと思う。

表3には、4・5類のうち讃岐式で0型が經って現れる語（それ以外は3.2. 参照）を、中央式のaと無

関係に、すべて取り上げた（但し4類「別れ」は話者31と33は1型、他は全員0型で省略）。3.3.1.で述べたⅡ名3類の境界と等語線が一致するものは少ないが、「男・鮑・俵」（4類）「涙・枕」（5類）が比較的それに近い。

この他、Ⅲ動2類の終止連体形も1部これに準ずる分布を示す（1類は全域0型）：写す（話者1～4は1型、4は0型も、他は全員0型）、落とす（話者1～6は1型）、4は0型も、他は全員0型）、思う（話者1～6、9、11は1型、4は0型も、他は全員0型）、泳ぐ（話者2は1型、他は全員0型）、頼む（話者1～6、11は1型、他は全員0型）。中央式で、かなり1型→0型への変化が進んでいるので、分布が不明瞭になっている。調査地域の西端の方に1型が多く現れているが、中央式内部の地域差と断定するには調査地点が少ない。また実際にはもっと併用の人が多いか。

3.3.3. Ⅳ形について表4に示す。「讃岐式テ2型・中央式2型」の分布である。この境界はⅡ名3類のものより西へずれている。旧萩生村の多くは、中央式でありながらテ2である（東・西・旦の上、岸の下の1部）。

3.3.4. 低接の付属語のアを表4に併せて示す。注意すべきは、Ⅱ＝0型（鳥、梅）に低接の付属語がついた場合、「讃岐式1型・中央式2型」の分布を示すことである。讃岐式で1型となる理由については拙著1984 p. 113 参照。なお、讃岐式でテ2型は現れなかった（cf. 拙稿1984 p. 113）。この境界は3.3.3. で述べたⅣ形に一致する。

3.4. 上記（3.3.1.～3.3.4.）の4点のうち、地域差が不明瞭なⅢ名4・5類をのぞく3点について、境界付近の状況をまとめて図示すれば、表5のようになる。話者1～15は純然たる中央式、21～33は讃岐式である。問題は話者16～20（岸の下、西、旦の上、東。何れも旧萩生村域）である。ここは中央式でありながら（Ⅱ名3類による）、Ⅳ形とⅡ＝0型+低接のアについては讃岐式的である。

問題の地域のアの変遷に関して、例えば次の2つの可能性がある。(1) 元来純然たる中央式であったが、讃岐式との接触によって、Ⅳ形とⅡ＝0+低接のアに変化が生じた。(2) 元来純然たる讃岐式であったが、中央式との接触によって、Ⅱ名3類のアに変化が生じ、中央式になった。(1)と(2)の中から選ぶとすれば、(1)の可能性が高いと思う。その理由は次の通り。まず、(2)の変化はⅡ名3類とそれに準ずるかなり多数の語に生じなければならないが、(1)の変化はⅣ形とⅡ＝0型+低接という「2項目」である（上野1981 p. 84 参照）。次に、(2)の変化は自律的变化ではありえない（讃岐式ではⅡ名1・3類がともに0型である。ここで1類が0型のままで、3類のみが自律的に1型に変化することは不可能）。中央式との接触のみが要因である。これに対し、(1)の変化は、讃岐式との接触が最大の要因であることは間違いないが、中央式内部にもその変化を受け入れる基盤があった。即ち、論理的には(1)の変化は自律的にも生じうることと、中央式でⅢ＝2型の多くが1型などに変化したこと（4モーラ語の変化は不明だが、Ⅳ＝2型の語の多くも他の型に変化したと思われる）がそれである。最後に、(2)の変化が起こった場合、問題の地域でⅡ名3類のアがばらついたり、もっと連続的に移行したりすることが予想される。しかし、現実にはⅡ名3類のアは問題地域で相当よく1型に纏まっている。かえって話者21～の讃岐式に1型が目立つ（3.3.1.参

照)。上記の理由から、(1)の変化が現実起こった否かは別にして、問題地域が中央式的であることは明らかである。

なお、話者 15 と 16 は 10 メートルも離れていないところに住む同級生であるのに、Ⅳ形とⅢ＝0型＋低接のアが異なる。旧萩生村域の分布調査が今後の課題である。

注

- 1) 讃岐式・中央式などの名称は上野(1985b)による。拙稿(1984)で「丸亀式」という名称を用いたが、それは、上野氏の用語で言えば、讃岐式から高松型を除いたもの、即ち(小豆島のものなどを除くと)丸亀型と観音寺型をあわせたもの、のつもりであった。しかしこれは曖昧であった。佐藤(1986)p.2に拙稿が引用されているが、そこでは拙稿の「丸亀式」を丸亀^〇型の意にとられてしまった。新居浜市の讃岐式アは、丸亀型ではなく観音寺型である。
- 2) 拙稿(1984)p.110 参照。
- 3) 新居浜市の讃岐式は全般に境界に近いので、若干中央式的傾向を持つ(3.3.1.など参照)。それに対し、境界から離れた、いわばより純粹の讃岐式の例として、川之江と伊予三島のアを取り上げた。なお、拙稿(1984)p.113 ㄥ-3 で、(秋月氏のⅢ名3類のアは)「0型と1型が相半ばする」と書いたが、一寸言いすぎで「1型があればこれ目立つ」といった程度である。
- 4) 下降式の名称は上野(1985ab)による。
- 5) 愛媛県の中央式の低起式は、従来全域で遅上がりとされていたので、本稿の記述はそれに反する事になる。讃岐式観音寺型の低起式は、早上がりであるが、中央式と異なり、第1モーラから第2モーラへの上昇の度合が少なかったり、平板になることがある。しかし、新居浜市の讃岐式は、川之江や伊予三島に比べれば、比較的その上昇が明瞭である。ある程度下降式の下降の度合と相関関係があって、漸層的に移行しているのかもしれない(3.1.参照)。
- 6) 2＝テ2などのモーラ内の下降調は、本稿の調査地域では聞かれなかった。讃岐式の他地域には存在するところもある(拙稿1984 p.115 ㄥ. 7-9 訂正)。この点に関し、愛媛県中央式の他地域の詳細未詳(松山方言につき、山内(1932)p.37と平山(1957)を比較)。Ⅲ＝カ(コ)3、Ⅲ＝テ3につき、3.2.参照。
- 7) 漸層的移行と移行性分布は必ずしも同義ではないかもしれない。例えば、①完全に連続的な移行と②等語線の束が何か所かに分れて存在する場合のうち、①のみをさすのか、①と②両方を含むのが問題になる。漸層的移行の定義はなされていないが、漸層^〇という名称からして、おそらく①と②の両方を含むのであろう。移行性分布は、山口(1982)p.77の定義からすると、①のみをさすようである。但し、山口(1982)p.76の「別表」において、各「コース」の内部^〇ではある程度等語線は束になっている。
- 8) 新居浜は住友によって開発された町で、以前から人の出入りが激しかったようである。そのようなことも関係するかもしれない。

引用文献

- 平山輝男 1957 『日本語音調の研究』 明治書院
- 金田一春彦 1965・1966 「讃岐アクセント変異成立考」 『国語研究』 21・22
- 1977 「アクセントの分布と変遷」 『岩波講座日本語 11 方言』 岩波書店
- 中井幸比古 1984 「真鍋式アクセントの所属語彙」 『言語学研究』 3
- 佐藤栄作 1986 「香川県高瀬アクセントについて」 『山手国文論攷』 7
- 上野善道 1981 「新潟県における中輪・外輪アクセントの境界線」 『金沢大学文学部論集文学科篇』 2
- 1985 a 「香川県伊吹島方言のアクセント」 『日本学士院紀要』 40 の 2
- 1985 b 「日本本土諸方言アクセントの系譜と分布(1)」 『日本学士院紀要』 40 の 3
- 山口幸洋 1982 「アクセントにおける移行性分布の解釈」 『国語学』 130
- 山内千万太郎 1932 「松山方言のアクセント研究」 『方言』 2 の 3

〔付記〕

本文中にあげた話者の方々と、話者の紹介などで御世話になった次の方々に厚く御礼申し上げます：西条・新居浜・川之江各市教育委員会，左記各市公民館，秋月洋子氏，伊藤直栄氏，藤田図南夫氏，宮崎美津枝氏，石津啓子氏，白田サワ子氏（順不同）。

音韻について，簡単に触れておく。文節中尾の「ダデド」「ガギグゲゴ」の子音は，各々，話者・場合により，〔d〕または〔～d〕，〔g〕または〔～g〕。二重母音としてのエイは，エー。セゼは，話者・場合によりシェジェ。

（なかい ゆきひこ，研修員）

図 1

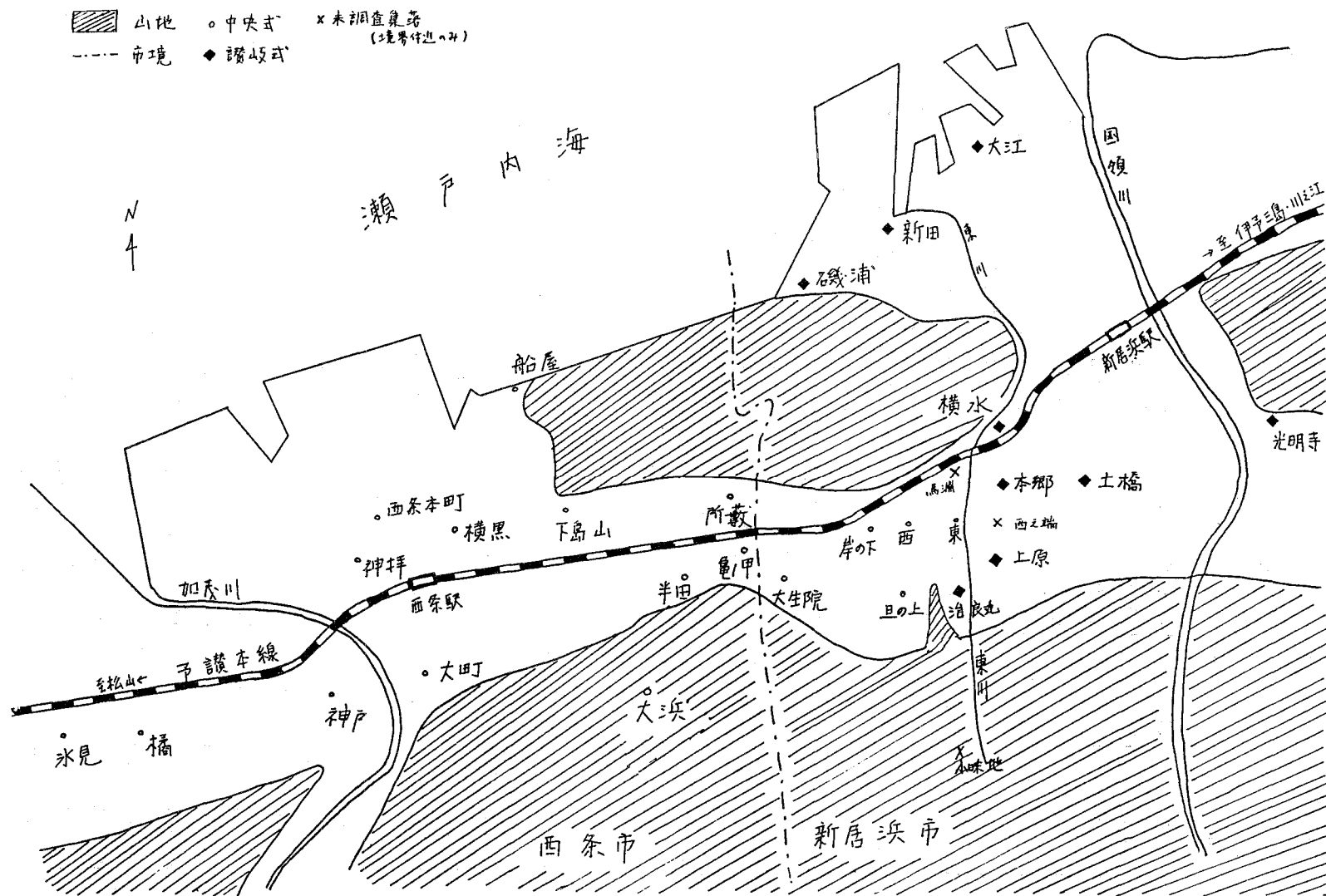


表 1

中 央 式

ア 型	音	調	類
I=コ0	「○ ○。	「○ (○) ▷...	名1類
I=コ1	「○「○。	「○「(○) ▷...	名2類
I=テ0	○「○。	○「(○) ▷...	名3類
II=コ0	「○ ○。	「○ ○ ▷...	名1類, II動1類
II=コ1	「○「○。	「○「○ ▷...	名2・3類, II動3類
II=テ0	○「○。	○「○ ▷...	名4類, II動2類
II=テ2	○「○。	○「○「▷...	名5類
III=コ0	「○ ○ ○。	「○ ○ ○ ▷...	名1類, II III動1類, III動1・2類
III=コ1	「○「○ ○。	「○「○ ○ ▷...	名(2)3(4)5類, III形1・2類
III=コ2	「○ ○「○。	「○ ○「○ ▷...	名(2・4)類
III=コ3	「○ ○ ○。	「○ ○ ○「▷...	少
III=テ0	○「○ ○。	○「○ ○ ▷...	名6類, II III動2類, III動3類
III=テ2	○「○「○。	○「○「○ ▷...	名7類
III=テ3	○「○ ○。	○「○ ○「▷...	少

讀 岐 式 観 音 寺 型

ア 型	音	調	類
I=カ0	「○▽○。	「○ (○)▽▷...	名1類
I=カ1	「○「○。	「○「(○) ▷...	名2類
I=テ0	○「○。	○「(○) ▷...	名3類
II=カ0	「○▽○。	「○ ○▽▷...	名1・3類, II動1類
II=カ1	「○「○。	「○「○ ▷...	名2類, II動3類
II=テ0	○「○。	○「○ ▷...	名4類, II動2類
II=テ2	○「○。	○「○「▷...	名5類
III=カ0	「○ ○▽○。	「○ ○▽○ ▷...	名1・4・5類, II III動1類, III動1・2類
III=カ1	「○「○ ○。	「○「○ ○ ▷...	名2・3類, III形1・2類
III=カ2	「○▽○「○。	「○▽○「○ ▷...	欠
III=カ3	「○ ○▽○。	「○ ○▽○「▷...	少
III=テ0	○「○ ○。	○「○ ○ ▷...	名6類, II III動2類, III動3類
III=テ2	○「○「○。	○「○「○ ▷...	名7類
III=テ3	○「○ ○。	○「○ ○「▷...	少

表 2

地 点		氷 見	橘	神 戸	大 町	神 拝	西 条	下 島 山	横 黒	船 屋	大 浜	半 田	所 藪	龜 ノ 甲	大 生 院	岸 の 下	岸 の 下	西	旦 の 上	東	東	治 良 丸	横 水	本 郷	上 原	上 原	磯 浦	新 田	大 江	光 明 寺	三 島	川 之 江	川 滝	
話 者 番 号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33	
a	靴	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0		
	事(書く～)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0		
	時(来る～)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0		
	組(学級)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0		
	栗	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0		
	菊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0		
	泡(話者10アオ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	
	貝	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
	鯛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
	恥	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	
	綱	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1,0
	熊	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0
	鍵	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	弟子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	花	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0か	0	0	0	0	0	0
	茎	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	月(空の)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	櫛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	枅	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0,1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	幕	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鬼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 2 (続)

地 点	氷見	橘	神戸	大町	神拝	西条	下島山	横黒	船屋	大浜	半田	所蔵	亀ノ甲	大生院	岸の下	岸の下	西	旦の上	東	東	治良丸	横水	本郷	上原	上原	磯浦	新田	大江	光明寺	三島	川之江	川滝
話者番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33
a	島	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	脛(膝頭)	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	丈(タキの人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	裏	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝(鶏肉の)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	谷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	角(ツノ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	土	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	毒	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	縄	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	夢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b	綿	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	弓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ひび(茶碗の)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	苔	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	墨	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1,0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	垢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	網	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	犬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	芋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 2 (続)

地 点		氷 見	橘	神 戸	大 町	神 拝	西 条	下 島 山	横 黒	船 屋	大 浜	半 田	所 蔵	亀 ノ 甲	大 生 院	岸 の 下	岸 の 下	西	旦 の 上	東	東	治 良 丸	横 水	本 郷	上 原	上 原	磯 浦	新 田	大 江	光 明 寺	三 島	川 之 江	川 滝	
話 者 番 号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33	
b	色	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腕	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	馬(ンマ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	膿	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	親	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	髪	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	草	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	米	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	塩	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	霜	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	波	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	糠	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	蚤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	海苔	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	樹	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マース																1	1	1	1	1	0	0	0	0	0									
豆	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c	竿	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	店	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	足	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腹	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表 2 (続)

地 点		氷見	橘	神戸	大町	神拝	西条	下島山	横黒	船屋	大浜	半田	所蔵	亀ノ甲	大生院	岸の下	岸の下	西	旦の上	東	東	治良丸	横水	本郷	上原	上原	磯浦	新田	大江	光明寺	三島	川之江	川滝
話者番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33
c	糞(クソ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	節(竹の)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	倉	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d	池	テ2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	坂	テ2	テ2	テ2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岸	0	0	テ2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0,1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	姪(メー)	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	桑	1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0
	玉(水晶, 弾)	テ0	テ0	テ0	1	1	テ0	1	1	テ0, 1	テ0	テ0	テ0	テ0, 1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	テ0	0	0	1	0	テ0	0	0	0	0
	(うどん)	テ0	テ0	テ0	テ0	テ0	テ0				テ0	テ0	テ0		テ0	テ0	テ0		テ0	テ0	テ0	不使	テ0		不使	テ0	テ0	テ0				テ0	
以上3類																																	
e	蛸	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳩	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	沖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以上X類																																	
1型の語数		78	79	79	82	81	80	81	82	81	80	78	79	80	79	81	81	81	78	73	72	29	22	28	22	14	21	9	6	7	1	1	1
0型の語数		1	1	0	0	1	1	1	0	2	2	3	2	3	3	1	1	1	4	9	17	53	60	54	60	68	61	73	75	75	81	81	82

表 3

地 点	水見	橘	神戸	大町	神拝	西条	下島山	横黒	船屋	大浜	半田	所蔵	亀ノ甲	大生院	岸の下	岸の下	西	旦の上	東	東	治良丸	横水	本郷	上原	上原	磯浦	新田	大江	光明寺	三島	川之江	川滝	
話 者 番 号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33	
硯	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	1	1	1	1	テ2	1	1	1	1	テ2	テ2	0	テ2 _か	0	
男	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
俵(ターラ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1,0	1	1	0	0	0,1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
匏	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鏡	テ2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
刀	テ2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
袴	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
団扇	テ2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0,1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
言葉	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
曆	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
扇	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0,1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
表	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
頭	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	テ0	テ0	テ0	
五日	2	1	1	1	0	0	1	1	1 _か	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
七日(ナヌカ)	2	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
余り(物)	2	0	1 _(0か)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	テ0	テ0	テ0	
宝	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
匂い	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
恨み	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
頼み	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流れ	2,0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
縫い目	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
光	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表 3 (続)

地 点	氷見	橘	神戸	大町	神拝	西条	下島山	横黒	船屋	大浜	半田	所蔵	亀ノ甲	大生院	岸の下	岸の下	西	旦の上	東	東	治良丸	横水	本郷	上原	上原	磯浦	新田	大江	光明寺	三島	川之島	川滝
話者番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33
袋	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	1	テ2	0	テ2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以上4類																																
五つ(名詞)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
命	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
心	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,0	1	1	1	1	1	0	1,0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0
胡瓜(キューリ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
涙	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
箒	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
油	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	1か	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
枕	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
以上5類																																

表 4

地 名	氷見	橋	神戸	大町	神拝	西条	下島山	横黒	船屋	大浜	半田	所蔵	亀ノ甲	大生院	岸の下	岸の下	西	旦の上	東	東	治良丸	横水	本郷	上原	上原	磯浦	新田	大江	光明寺	三島	川之江	川滝
話者番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	29	30	31	32	33
悲しい	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
優しい	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
苦しい	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
涼しい	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
鳥も、梅も	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
松も、船も	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
鳥と(引用)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
松と(引用)	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
鳥より、梅より	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
松より、船より	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2

表 5

地 点	大生院	岸の下	岸の下	西	旦の上	東	東	治良丸	横水
話者番号	14	15	16	17	18	19	20	21	22
Ⅱ名3類 1型語数/0型語数	79/3	81/1	81/1	81/1	78/4	73/9	72/17	29/53	22/60
Ⅳ形	2	2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2	テ2
Ⅱ=0型+低接	2	2	1	1	1	1	1	1	1
	中 央 式							讃 岐 式	